十勝沖地震に伴う 厚岸町床潭地区の 津波被害聞き取り 座談会記録

> 字 北海道 厚岸町 厚岸町教育委員会



目 次

1	はじめに	1
2	座談会参加者と地震被害の概要	2
3	昭和27年(1952)3月4日発生の十勝沖地震について	3
4	床潭地区航空写真	4
5	地図と写真の撮影位置関係	5
6	座談会記録	6
7	<資料1>厚岸町史聞き取り調査記録 (平成13年8月)	53
8	<資料2>海岸線の特徴及び地名	74
9	<資料3>床潭地区地形図及び当時の番地	75
10	<資料4>床潭小学校開校80周年「八十路の歩み」より	76
1 1	<資料5>昭和27年当時の生活について	77
12	<資料6>町報あっけし(昭和27年3月)	79
13	<資料7>十勝沖地震の記憶(床潭地区児童・生徒の作文)-	81

はじめに

厚岸町教育委員会教育長 酒井 裕之

昭和27年に発生した十勝沖地震は、当町の床潭地区の一部が壊滅状態となり、死者も発生する甚大な被害をもたらしました。

当町ではその後も幾度となく大規模な地震に見舞われましたが、平成23年に発生した東日本大震災では、再び最大2.7mの津波が押し寄せ、人的被害こそなかったものの、海岸線付近の民家や公共施設の床上浸水のほか、漁業施設等に甚大な被害が発生し、津波は本当に来るんだという住民の意識が変わりました。

これを機に改めて町民の防災意識と避難対応向上の必要性が認識され、今後の課題として、「自分だけは大丈夫」「津波は来ない」という意識を転換する必要があります。

近年地震に対する調査が進み、今後30年以内に震度6弱以上の揺れが起こる確率を示した全国地震予測地図の2018年度版が公表され、前回の17年度版と比べ釧路が47%から69%に上昇するなど、道東地区を中心に大幅に確率が上がりました。

これは東日本大震災を踏まえて評価方法を見直し、複数の震源域が連動し、 マグニチュード9クラスの「超巨大地震」が起こる可能性が初めて示された ものです。

今後起こりうる災害を最小限に抑えるためにも、当時の津波被害が風化することのないように、当時の地震経験者による座談会を通して記録を残し、 津波被害の状況と教訓を後世に伝えることに繋がれば幸いです。

昭和27年3月4日発生の十勝沖地震に伴う 座談会参加者と地震被害の概要

■参加者

<当時被害に遭われた床潭地区住民>

高島 昭氏 / 多田 勝義氏 / 遠藤 弘氏 / 高畠 キエ氏 <座 長>

室崎 正之 氏(写真提供者、町史編さん審議会長)

〈町史編さん審議会委員会協力員(オブザーバー)〉

黒田 庄司氏 / 米内山法敏氏 / 髙橋 敏晴氏(町史編さん室)

<厚岸町役場>

国井淳一郎 (総務課危機対策係)

〈厚岸町教育委員会・海事記念館〉

三浦 博哉 / 車塚 洋 / 熊﨑農夫博 / 前田 芳和

■座談会日時・場所 平成30年4月25日(本の森厚岸情報館)

■ 写真情報

- ▶ 昭和27年3月6日撮影(撮影者:元厚岸町議会議員 故室﨑喬介氏)
- ▶ 写真撮影の状況

地震発生後、床潭地区で厚岸町議会の 臨時議会が開催され、その際の現地 視察時に撮影されたもの。

- ► 写真は、本の森厚岸情報館で複製画像を 所蔵、公開。
- ► 写真下の点線枠は故室﨑喬介氏の写真 撮影時のメモを付したもの。





左から(床潭住民)遠藤弘氏、高畠キエ氏、高島昭氏、多田勝義氏、(座長)室崎正之氏

昭和27年(1952)3月4日発生の十勝沖地震について

【被害状況】

■昭和27年3月4日、午前10時23分、十勝沖(北緯42°09′、東経143°52′)で発生。

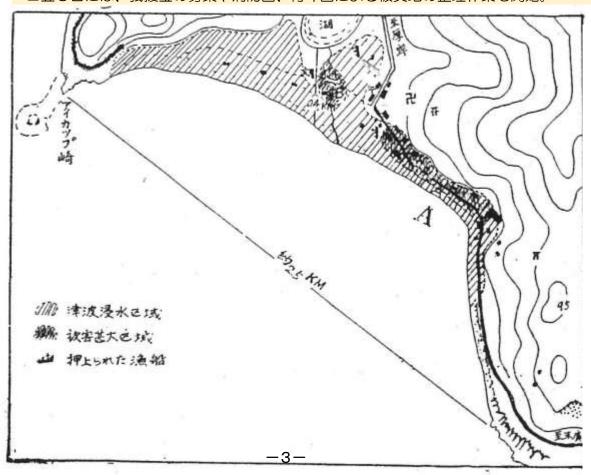
M8.2、最大震度5、大津波を伴った。

- ■十勝沖地震全体での死者・行方不明者33名、負傷者287名。
- ■厚岸町では、床潭地区が特に被害が甚大で、津波は5m以上、内陸へ約400m遡上。 死者2名、重傷者4名、倒壊家屋37戸、床上・床下浸水約100戸 この他、漁船の流出・破損などあり

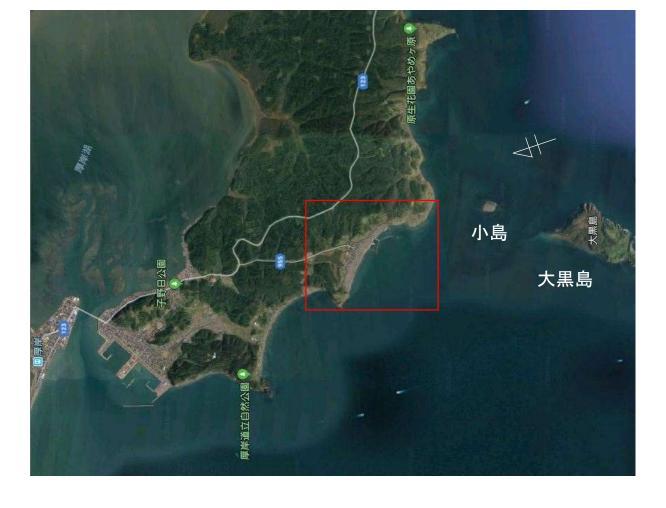
データ出典: 十勝沖地震調査報告(1954年十勝沖地震調査委員会発行)

【地震・津波の状況推移】

- ■昭和27年3月4日、午前10時23′地震発生。
- ■厚岸では、地震発生後、数ヵ所で小火(ぼや)があり、消防団が出動。
- ■床潭郵便局長より、役場に電話連絡あり。津波が迫っていた。
- ■町立厚岸病院の医師や役場職員を乗せたトラックが床潭地区へ向う。
- ■正午には、厚岸町災害対策本部を設置。
- ■民生委員協議会が町内有志に呼びかけ寝具の寄附を募り、午後4時には床潭地区に届ける。同時に、米十俵・調味料・毛布なども届き、炊き出し開始。
- ■翌5日には、義援金の募集や消防団、青年団による被災地の整理作業も開始。



卾勝沖地震調査報告』十勝沖地震調査委員会、1954年



上:厚岸町広域/下:床潭地区全体 (写真Google)





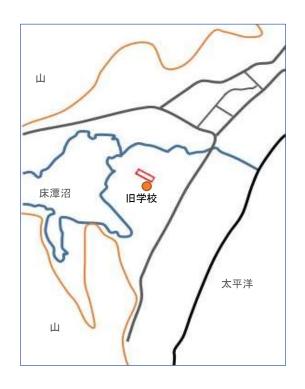
床潭上空 (写真Google)

① 地震発生直後の厚岸町議会現地視察の様子



時を移さず岸田町長以下並に町議会議員は余震未だ収まらず不安心裡に現地調査に入った

快晴雲一つなく、なぎさに啼く白い鳥の姿も徒らに此の惨状をみる時、天の無情に嘆ぜざるを得ない (床潭小学校附近にて)



【室﨑】

本日は宜しくお願いいたします。

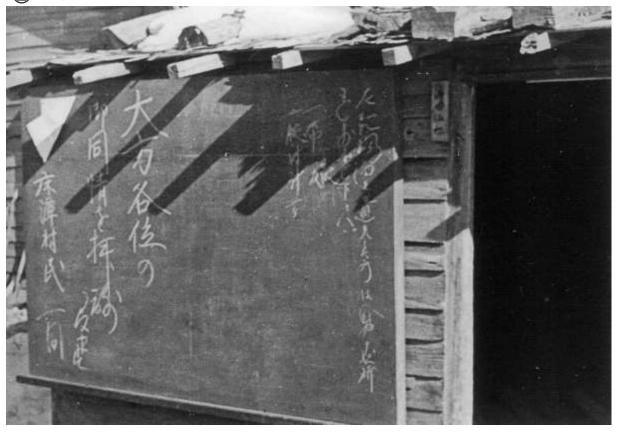
昭和27年3月4日に地震と津波がありまして床潭が壊滅的な被害を受けました。

その翌日か翌々日に厚岸町議会の臨時議会が床潭で開かれ、全ての議員が消防車に 乗って行ったと聞いています。そして床潭に入ってその惨状をつぶさに視察し、色々話 もお聞きし、「復興に全力を挙げるから」と村の人たちと話し合いました。

その時に私の父が撮ったものがこの写真です。

本日の進行は、お手元のスクラップブックや、配布した資料と同じ写真を画面に映しますので、人物や場所、建物等の状況について教えていただき、この写真の資料として一つのものにまとめることで、昭和27年の大津波の村の惨状を完全に記録できるのではないかと思いましたので是非ご協力をお願いいたします。

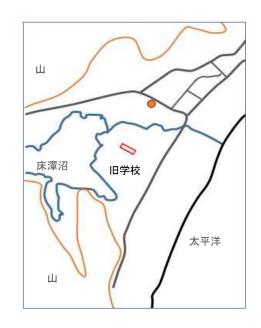
② 郵便局前の掲示板



震ふ大地と襲いかかって来た波。この恐怖の中より立上った村人達の唯一つの 表現は村の入口にかけられた床潭郵便局備付の黒板に西村局長の手によって書か れた赤いチョークの走書の一句にみえた。

噫3月4日 白昼の通り魔か 全村タタキノメサレタ状態乍ら 虚脱感の村民 の口元にも 不服の海に対する挑戦のきたへられた感覚は更によりよき愛する床 潭村建設に努力する事をヒシヒシと感じたのである。

【車塚】 昭和27年3月4日午前10時 24分に発生した十勝沖地震は 全体で死者行方不明者33名、 負傷者287名となっています が、厚岸町の床潭地区は死者2 名となっています。町報では、 3名になっていますが、十勝沖 地震の公式発表だと2名となっ ています。



亡くなられたのは小松さんと久保田さんの2名で間違いないですか。

【住民】 そうです。

【車塚】 当時地震が発生した段階で、床潭の郵便局長から役場に電話が入って惨状が 報告されたというお話で、正午には既に災害対策本部が町に設置され、この 後町内有志の方の寄付や色々な義援金の募集などが順次行われています。 十勝沖の地震調査委員会とで出した報告書はその2年後に出されて、床潭沼 がある前の部分と、山裾が甚大な被害を受けた場所だという報告がされてい ます。では、早速写真を見ていきたいと思います。

【室﨑】 これは西村退蔵さんの字と聞いていますが、非常に達筆な方です。

【車塚】 掲示していた場所はわかりますか。

【住民】 郵便局の前にあったんでないか。

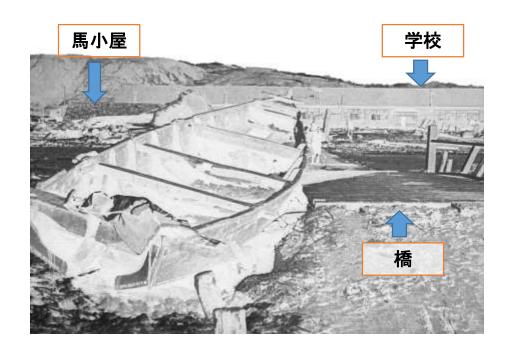
【車塚】 大学や書道の先生にもご協力を頂きましたが、全ては読めませんでした。 左側にはご同情を頂いた皆様への感謝の気持ちが記され「大方各位のご同情 を拝謝 床潭村民一同」とあり、右側には遺失物の連絡が記され「左記に物 品ヲ遺失した方は〇〇所までおこし下さい。一. 〇〇、一. 〇時計1ケ」と 書いてあります。

【室崎】 当時の掲示板ですね。

③ 保育所付近の橋から床潭小学校方向の状況



中学校前の橋へひっかかった大波の置土産 西村局長宅のすぐウラ 此の橋も全くこわれてゐます





【室﨑】 学校ですね。船の右側にあるのは保育所の橋ですか。

【高畠】はい、うちの裏のあたり。

【室﨑】 そこは川ですね。 杭のような3本立っているのは橋の欄干でしょうか。

【高畠】 そうだね。

【室﨑】 保育所の方から見ているということでしょう。

【高島】 2番地にある方だ。

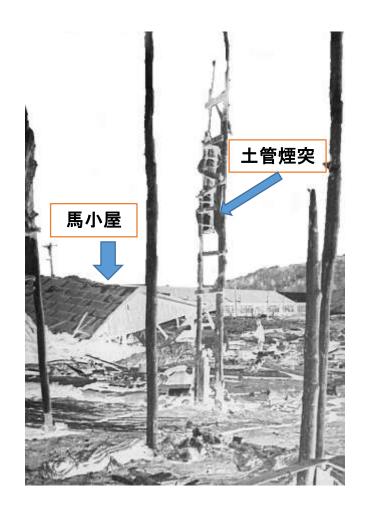
【室﨑】 今の学校はこれでいうと左側の手前に立っているんですね。

④ 高畠宅から床潭小学校方向の状況



"もう何も云い得ない"此の写真から受けるもの あなたの胸は何とあなたに呼びかけるのでせうか 余りにも皮肉な天の徒らに土管二本がつられて ストーブ、エントツのありかをみせています

私の家はここだったのだ 私のタイタ今朝のストーブの煙がこれから出たのだったかと此の柱をなぜてなきくずれてゐた女の人に一寸遠慮して頂いて写しましたでもその姿は私のカメラも写すのはイヤと泣いてしまったのです





(用語解説)

(注1)土管煙突

当時家屋の外に外壁に沿って 煙突を立てたが、ブリキでは耐久 力がないため、土管をいくつかつ ないで縦煙突とした。

支えは足場丸太を並行に建て梯 子状の支えを入れた。

家は流され足場丸太と煙突の一部が残ったもの。

【車塚】 これは当時の学校の校舎が写っています。
古い校舎と建て増しした部分で、屋根の色が違います。

【室﨑】 潰れている屋根は校舎じゃないですね。

【車塚】 それは判断できませんでした。

【室﨑】 このひゅっと立っているの、何だかわかるでしょう。 煙突ですよ。土管煙突。(注1)

【高畠】 そして潰れているのが家だ。

【室﨑】 その屋根は高畠さんの家ですか。

【高畠】 家ではないけど馬小屋です。

【室﨑】 今の煙突があった家は誰の家かわかりますか。

【高畠】 高野(高野政男)さんの家でないだろうか。

【室﨑】 場所は今、高畠さんがお住まいになっている当たりですか。 それから学校の方を見ているんですね。

【高畠】 そうですね。

⑤ 高畠宅の室の付近



一室徒らに悲愁の感を深くし 胸重く 歩む足も重い

死の恐怖 未ださめず 子供達はようやく町から借りた一枚の角巻と幼い弟妹を 背負って何を語ってゐるのか

何も無い中から復興第一歩を踏み出さんとする村民の悲壮な姿



【遠藤】 この写真、うちの家内と磯田さんだ。 譲(磯田譲)の妹ともう一人誰だ。

【室﨑】 人が立っているのは現在のどのあたりですか。

【高畠】 三角の前に人が二人見えるところは、 うちの昔の室なんです。

【室﨑】 今の高畠さんのお宅ではないんですね。 うちはもっと下の方にあったんです。 今の佐藤さんの建っている家の所。

【車塚】 三角屋根の位置を図面で確認します。

【高畠】 三角屋根の先は、床潭の2番あたりです。

【車塚】 右側に学校があったんですね。



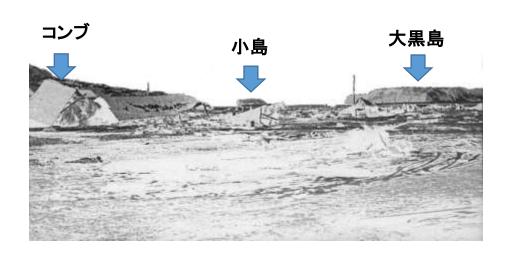
⑥ 床潭入り口付近から大黒・小島方向の状況



左に小島 右に大黒島が望見される

稍中央にみえる電柱が大概かくれる程度の津波

セッケンあわをたてた様な波、一挙に押し上げて来た此の附近は只水神の怒りの 侭に全てのものは海神の犠牲として運びさられたのである



【車塚】 大黒島と小島が映り込んでいます。 ここに藁(ワラ)をたくさん積んだ 家がありますが。

【高畠】 藁ではなく昆布なんですあれ。

【室﨑】 これはまだ遠景なのでよく解らないですね。その脇に潰れた屋根があります。

【遠藤】 8番あたりでないの。

【室﨑】 床潭の入り口のあたりから見ていますか。

【住民】 位置的にそうだね。



⑦ 床潭中心部からピリカウタ方向の状況



ようやく集めたいくらかのタタミは凍て付いて板同様 僅か流失を逃れた家屋の一群は 現地に於けるオアシスの感がある 左二階建は村集会所で避難所として使へたもの

金比羅さん





【車塚】 ピリカウタに走っていく斜面があります。

【室﨑】 奥の遠景には金比羅さんが写ってるんですね。

【高畠】 そうですね。 これは鈴木勇さんのあたりだね。

【室﨑】 床潭に入って間もない中心部のあたりから見ている写真ですね。

【住民】はい。

⑧ 神社下付近の状況





床潭村5番地は村中でも中心的存在であった
そして又被害も中心となったのである
足の踏み場もない此の惨状に私も胸がドキドキ
してカメラも遂にブレテしまった
人影すらもない全くの死の一瞬とも云うところか よろしく御想像に委せよう

拡大範囲



*四角枠は前頁の拡大写真の部分

【車塚】 山並みの裾に道が走っています。

【高畠】 神社の下あたりだね。

【室﨑】 この写真のもう少し左側に神社がある ことになりますか。 しかし、本当にすごい惨状ですね。

【車塚】 ここの部分に注目して欲しいんですけど、 屋根の上に人が登っているように見える んですが、その拡大写真がありました。 斜面に道があったんですか。

【高畠】 今でも通っている道があったね。

【室﨑】 父のメモや他の方からの資料を見ますと、 真龍や厚岸から直ぐ駆けつけて、片付け などを手伝っていたようです。もしかする とその方々が入って作業している状態かも しれません。

【高畠】 そうだね。



⑨ 水を含んで残った昆布の状況



皮肉にも流失家屋のあとに昆布丈けは格納された姿の侭でつまれてゐた 然し一等検定を誇った昆布もこれでは全然ダメ 一ケ年の生命をかけた此の家の汗の結晶はこうして無残な姿に

(用語解説)

(注2) 16貫

16貫 8貫を2ケ束ねた。

中国大陸への輸出品であるため、相手国の重さの単位「斤」での切りのいい値 100斤(16貫)としたものと思われる。

1匁 = 3.75g

1斤 = 160匁 = 600g

100斤 = 60kg = 16貫

(注3) ユシュツ昆布

輸出コンブと思われる。戦前昆布は大量に中国大陸に向けて輸出された。

戦後もいわば銘柄として「輸出昆布」の名が使われていた。

結束方法は写真の通り現在とは異なる。写真では縄を用いて結束しているが、戦前は昆布で結束したという。





輸出コンブ(結束方法が今と異なる) (倉庫の中にあったが、倉庫だけが流された)

【遠藤】 亀田さん、高橋さん、鈴木勇さんの家で一番端の家が多田さんの親せきの家。

【車塚】 場所的に亀田文雄さんの所ですね。

【遠藤】 俺は津波の時は街の方にいたから、戻ってきたら俺の家は流されて屋根だけあった。そしてうちのおふくろと子供がね、浜まで流されちゃった。どこにいるか分からなかったが、その後亀田さんの家でお世話になった。これは、倉庫にあった昆布だから。

【室﨑】 この昆布が水を吸うから重たくなって残るんですね。建物(倉庫)は流されて、この昆布は結束の仕方が今と全然違うでしょ。当時、何貫という単位でしょうけど1段は何貫だったんですか。

【高島】 当時16貫(60kg)でなかったか。(注2) ユシュツ昆布って言って8貫のものを2つ束ねた。(注3)

【室﨑】 今で考えれば良く持ち上げたなという重さですね。

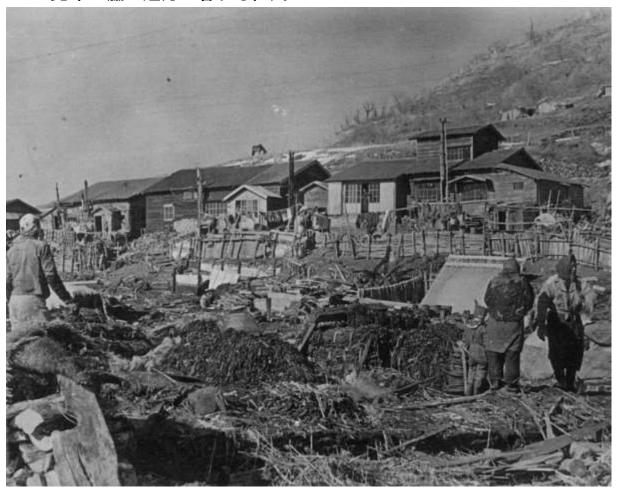
【遠藤】 この上に塚田さんの家があった。そして俺の隣が鈴木さんだった。 この昆布があったところには家があった。

俺の家の屋根なんかは浜の真ん中にあったもの。屋根だけ。

お袋がちょうど裁縫してた時の津波だから、生徒は窓から出るとかしてやっ と足をかけて上がったらしい。

お袋は子どもがいるからそれをつかまえて一緒に流されちゃった。

⑩ 昆布の脇で途方に暮れる住民



此の中に立った此の老人夫婦は愛する子供二人を戦争に捧げ 孫一人の成長を楽 しみとしてゐた

今我家のあとに立って"どうすればよいのか"と泣いてゐる きかれた私も"なんとかしよう"とは云ってみたが





【車塚】これは先ほどの写真と同じ構図(同じ場所)になります。

【遠藤】塚田敏春のお母さんだな。

【車塚】ここに小さなお子さんが映り込んでいるんですよね。馬もここに映り込んでて。

【室﨑】しかし、本当にどこから手を付けていいか分からない状態ですね。

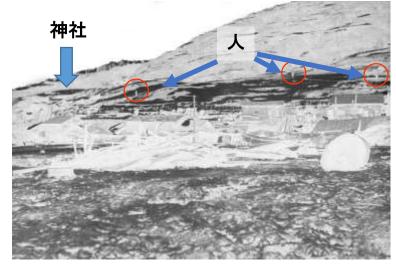




12)



(12)





12)



<写真⑪>

【車塚】 人が立っているところは昔の道ですか。

【住民】 どうかな。

【遠藤】 でも多田さんの家はあったよな。

【多田】 うちは潰れなかったもの。

【室﨑】 屋根だけ動いたということもありますので、ちょっとわからないですね。

<写真(2)>

【車塚】 もう少し山が映り込むようになっているのがこの写真です。 山側に人が歩いています。

【高畠】 道路があったんですよね。

【遠藤】 俺は山に避難していた。

【高島】 俺も山に3日間位居たから。

【室崎】 手前のほうが波のようにも見えるんですが、これは雪ですね。

【車塚】 もう一点この画面では見にくいんですが、左側に鳥居が写っています。

【遠藤】 あるある、神社があるもの。

【室﨑】 それは今も同じ場所ですね。

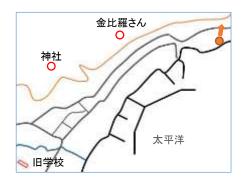
【遠藤】 そうだね。

① 救援活動の様子



チクシコイ青年団、末広青年団、本町消防団、隣村救護班等の救援活動はめざま しいものがあった

家の中に入りこんだ発動漁船を引出してゐる救援隊



【遠藤】 これ、久保田さんの家で、当時すごい大きな家だったんだ。

【室﨑】 これは立派な家ですね。

【車塚】 これはどこらへんになるんですか。(上記地図で確認)

【遠藤】 久保田さんの家わかるかい。写真のちょっと左側のところ。

【室﨑】 筑紫恋から応援隊が来ていたんですね。

【住民】 お世話になった、本当だ。



(場所不明)

「こうした形は未だ良いほうだろう

何故なら 屋根の形があるからだ」とポツンと云った村人の横顔には生々しい 自然と闘ったキズが血をにじませて痛々しくみえた

【車塚】 学校の校舎ではないですよね。

【住民】 違うね。

【室﨑】 高畠一美さんが、その日何かの関係で真竜(湖北)に来ていたんですね。

【高畠】 おじいちゃんがね。

【室﨑】 渡船は潮が速くて全然出せなかった。だから早くても次の日に戻った。 この写真を見て、手前のワラの様に見えるんですけど、これはうちの 納屋・屋根でないかと言っていた。草があるように見えるんですよね。

【高畠】 家は学校のグラウンドに屋根が落ちていたんだけど。

【室﨑】 ちょっとハッキリしないですか。







【室﨑】 これ分かりますか。あのつっかえ棒は後からかけたもんですかね。

【高畠】 後からかけたもんだね。

【室﨑】 崩れちゃうからね。これもこの写真だけじゃ位置はわからないですね。